

## ふるさとを紡ぐ

宮城県川崎町立富岡中学校

三年 眞 壁 菜々子

「こんな田舎の閉校した小学校を観光施設にして  
も人が来るわけがない。」と心の中で思っていました。  
しかし、準備は着々と進み、この夏、私が二年生ま  
で通っていた小学校が食と体験の観光交流施設に生  
まれ変わったのです。

学校の教室がそのまま活用され、様々な体験プ  
ー  
スや催し物があり、親子連れが楽しそうに参加して  
いました。地元の新鮮な野菜の直売所やレストラン  
もあり、たくさんの人で賑わっている様子は予想外  
でした。オープン当日は父も兄も駐車場係をボラン  
ティアとして引き受け、地域を盛り上げようと意気  
込んでいました。

生まれ変わった小学校に来た観光客が「すてきな  
学校だね」「体験が面白かった」「また来たい。」  
と言っているのを聞いて、始めは人が来ないだろう  
と反対していたことも忘れ、私は誇らしい気持ちと  
なりました。

閉校になる前の支倉小学校は、全校生徒が十九人。  
私はたった一人の入学生で、なんだか心細かったこ  
とを覚えています。父は、同級生のいない学級を見  
て「これではだめだ。教育のためには切磋琢磨する  
仲間が必要だ」と考え、保護者として閉校を進めた

一人です。私が三年生の時に近くの小学校と統合に  
なり、寂しさもありましたが、たくさんと同級生を  
得て楽しい日々を過ごしていました。

しかし父は、人気もなく傷んでいく校舎を見るた  
びに、本当にこれでよかったのだろうかとか辛い気持  
ちになっていたそうです。父も支倉小学校出身です。  
母校の閉校に関わる辛さは、私には到底想像できな  
いものです。

学校活用プロジェクトが本格的に始まった当初、  
父は「再び校舎に明かりを灯したい。」その一心で  
協力を惜しまなかったのです。そして、外観も修繕  
され、生まれ変わった校舎を目の前にした時、父は  
涙を流して喜んでいました。

父はプロジェクトに協力していく中、様々な地域  
の若い人たちが誠実に情熱を持って取り組んでいる  
姿を見て、とても感動したそうです。彼らがここで活  
躍することで町が活気づいてくると言っていました。

夏休みも終わる頃、私の通う中学校では町で開催  
された川崎レイクサイドマラソンの準備に全校生徒  
で取り組みました。今年で二回目となる町をあげて  
のイベント成功のため、地元のボランティアの方々  
も参加し、選手に発送するゼッケンや案内の袋詰め  
を行ったのです。

その時、町の方がイベントの主旨を熱く語って  
くれました。「多くの方にこの町の良さを知ってもら  
い、観光だけでなく住んでもらえる町にしたい。中  
学生の君たちは進学や就職で一度は町を離れるかも  
しれない。しかし、いつか戻りたいと思える町であ  
りたい。」と。

少子高齢化という問題を抱えている町ですが、プ  
ロジェクトやイベントで新しい風が吹き始めている  
と感じました。

最近、プロジェクトに携わった若い方が町の空き

家に引っ越してきたそうです。住んでいる私たちち  
りも、よそから来た人が町の魅力に気付き、情報を  
発信してくれています。

私が生まれ育ったこの町は数え切れないほどいい  
ところがあります。豊かな自然に囲まれ新鮮な野菜  
や山菜は当たり前。観光資源も豊富で、歴史に名を  
残した支倉常長ゆかりの地でもあります。なにより  
も住む人々の温かさが自慢のふるさとです。

私を育み、常に力を与えてくれるふるさとですが、  
それが当たり前すぎてその良さに気付かずにおしま  
した。しかしこの夏をきっかけにふるさとの魅力を  
もっと発信し、町のためにできることはないかと考  
え始めました。

私の学校では地域の伝統芸能である支倉豊年踊り  
に全校生徒が取り組んでいます。踊り手であり、何  
人かは笛や太鼓も奏でることができます。文化祭で  
大勢の観客の前で披露し、先輩から後輩に引き継が  
れていく伝統ですが、私も後輩たちに踊りや笛だけ  
でなくふるさとの良さを共に継承し、その役目を  
しっかりと果たすことが大切だと再確認しました。

また、父や兄のようにイベントのボランティアを  
引き受け、他の地域から来る方と交流することもで  
きます。町のお祭りに参加し町の良さをもっと深く  
学んでいくこともできます。ふるさとのためにでき  
ることはまだまだあるはずですよ。

町づくりは外からの新しい風を入れると同時に、  
今まで大切にされてきた地域の良さを再発見し、一  
枚の織物のように紡いでいくものではないでしょう  
か。

私はこれから進学や就職で様々な地域の人と関わ  
りながら、この町をみんなに自慢していきます。そ  
して愛するこのふるさとを未来に紡いでいく一人と  
なりたい。そう思っているのです。